

10. 自然現象

10-1. 時間 (季節・1日の区分)

10-1-1. 季節

昔はカレンダーがなかったが、シネ パ トゥ パ sine pa tu pa 「1年、2年」と言っていたから、心のカレンダーでやっていた。

〔白沢ナベ氏〕

マタ mata 「冬」。シリ マタ sir mata 「冬になった。」

11月ごろ山がぼうずになり (山の木の葉が落ちて)、そのころシリ チュク sir cuk 「秋になった」と言う。チクニ ハム トゥイ cikuni hamu tuy 「木の葉が落ちる」

〔白沢ナベ氏〕

10-2. 気象・天候・災害

10-2-1. 寒さ

恵庭川の昔の名前は、イザリ icari という。恵庭川は、昼間でもとけることがない。

千歳川 (旧名シコッ) は、川岸の両側は凍っていても昼には川のまん中がとけてそれまでに石の周りに凍り付いて氷の塊になったものが川底から浮かび、石ごと氷の塊が流れて行く。コンル コル クス、スマ カ ルプシ ペ ネ クス コンル コル クス モム シリ アヌカル ペ ネ konru kor kusu, suma ka rupus pe ne kusu konru kor kusu mom siri anukar pe ne 「氷になって、岩も凍って氷になって流れて行くのが見られますよ」と、父がよく言っていた。12月から2月頃のこと、3月に入ると雪も解け出す。自分では見たことがない。父や母の子供の頃の話ですよ。

〔白沢ナベ氏〕

10-2-4. 風

竜巻をウエン レラ wen réra という。ウエン レラ シポイエコル アルパ wen rera sipoye kor arpa 「大風が渦を巻いて行く」

〔小田イト氏〕

10-2-5. 雲

ニシクル アン マ シレクロク niskur an ma sirekurok 雲が出てきて暗くなる

クンネ ニシクル kunne niskur 黒い雲

レタン ニシクル retan niskur 白い雲

ニシクル ヘチャカ niskur hecaka 雲がなくなり晴れる

シニシ ヘチャカ *sinis hecaka* 雲一つない タント エアシリ シニシ アヌカル tanto
easir *sinis a=nukar* 「本空見えた」

〔白沢ナベ氏〕

10-2-6. 霧・雨・雪

霧をクルプペ *kuruppe* という。クルプペ アン *kuruppe an*「霜が下りる」(クルプペ ル
イ *kuruppe ruy* ともいう)。クルプペ アン コル ニ ハム トウイ *kuruppe an kor ni
hamu tuy*「霜が下りると木の葉が落ちる」。植物が霜にやられることをクルプペカル *kuruppe
kar* という。

〔白沢ナベ氏〕

11月に降る雪は根雪にならずとけて土中にしみ込む。12月の雪が根雪になる。根雪は、ウパ
シ ソクカル *upas sokkar* というが、ソクカルとは「ごぎの下に敷くもの」「下敷き」のこ
とで、この上に雪が降り積もる。

〔白沢ナベ氏〕

10-2-7. 雷

雷の色は赤と白があり、白い雷は恐くない(レタル イメル アシ コロ イルシカ ソモ キ
retar imeru as kor iruska somo ki 白い稲光がしても (雷が) 怒っているわけではない)。
赤い色だと本当におっかない。

〔白沢ナベ氏〕

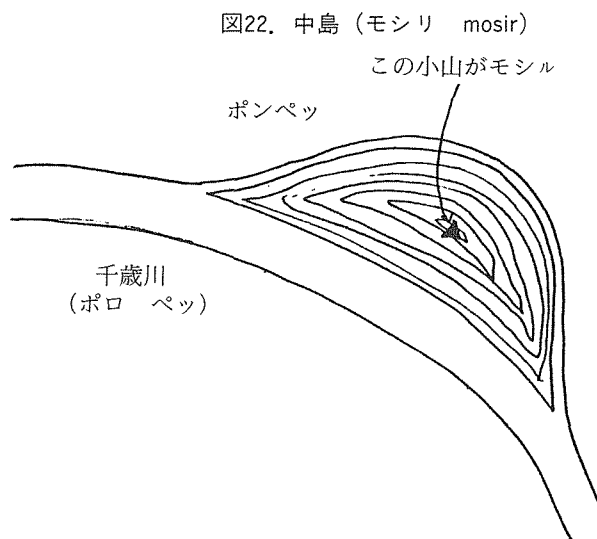
雷の神は、カンナ カムィで位はアペフチよりも下だ。

〔小田イト氏〕

10-4. 地理・地形

10-4-2. 地形名称

中島 (モシリ *mosir*)



木が生えているからモシリ mosir といえる。私の家の近くのモシリはポンペツ ponpet とポロペツ poropet (千歳川本流) にはさまっている。

〔白沢ナベ氏〕

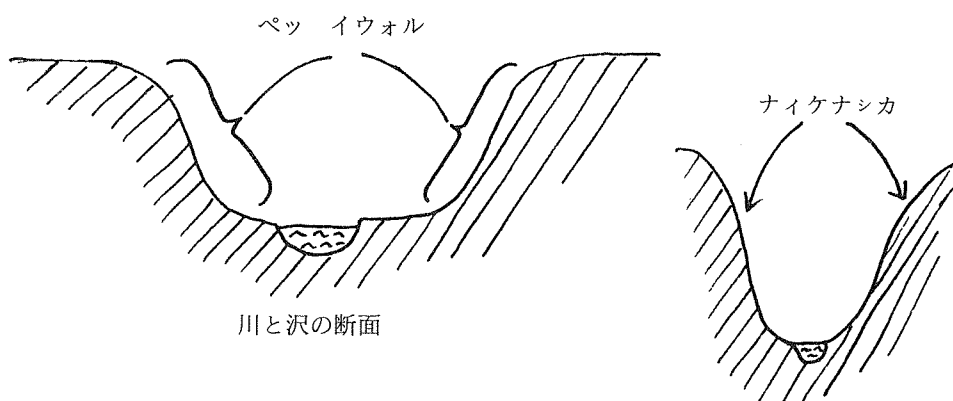
ハツタル hattar は川の深みで3 m以上もあり、人が歩いて入れないような所で、渦を巻いているところもある。

〔白沢ナベ氏〕

ペツ イウォル pet iwor とは、川の両岸の斜面のことだ。千歳川もふ化場を越した上流は両岸が切り立っていて、イワ コトル iwa kotor (岩盤) になっている。

沢の両側の斜面がゆるやかなら、それはナイケナシカ nay kenas ka という。

図23. ペツ イウォル pet iwor とナイ ケナシ カ nay kenas ka



レウケ ペツ rewke pet 折れ曲がった川

ピタル pitar 川岸、中島など、砂利が水の上に出ているところ。

ウッカ utka 流れが速く浅いところ。

ペッチチャイ petcicay 岸辺の浅いところ。子供が足をつけて遊べる場所。(スマ ポロンノ アン ルウェ ウン suma poronno an ruwe un 「石がたくさんあるよ」)

ペツカランケ petkaranke 川の近く(川の側まで行かない) (ペツカランケ シノツ アン petkaranke sinot an 「川の近くで遊ぼう」)

〔白沢ナベ氏〕

10-4-3. 方向名称

(以下にパーナ ウン エカシ pāna un ékasi とパーナ タ アン エカシ pāna ta an ékasi のような対の表現が挙げられている場合、ウン un を含んだ表現は「早口」で言われるもので、タ アン ta an を含んだ表現は「まていな」(丁寧な) 言い方で言われるものである)

1) 東西南北

東 コイカ koyka

西 コイポク koypok

コイカ ウン クル koyka un kur 日高の人

コイポク ウン クル koypok un kur 有珠の方に住んでいる人

南、北を表す言葉を聞いても風の名前しか出てこない。

南風 マツナウ matnaw (暖かいから「女の風」という)

北風 メナシ menas

[白沢ナベ氏]

2) 川上・川下など

川上(西)に住んでいるおじいさん

ペナ ウン エカシ péna un ékasi (ékasi の末尾の -i は無声化しない)

ペナ タ ウン エカシ péna ta un ekasi

川下(東)に住んでいるおじいさん

パナ ウン エカシ pána un ékasi

パナ タ ウン エカシ pána ta un ekasi

私の家は川上にあります

クニヒ ペナ タ アン k=unihi péna ta an.

川下に私の家はあります

ペツ パナ タ クニヒ アン pat pana ta k=unihi an.

川上に行こうよ ヘペラ パイエアン ロ hepera paye=an ro

川上の人 ペナ ウン クル péna un kur (ペニ ウン クル pení un kur というのは、
ずっと奥のこと、ずっと端のこと)

川下の人 パナ ウン クル pána un kur (パニ ウン クル pani un kur という言葉
は聞いたことがない)

もっと川下においで。

ナ ヘパシ エク na hepasi ek!

ナ ヘパシ サン na hepasi san! (どちらの言い方でもよい)

今日私は街(千歳市街)に行ってきた。

タント マチャ オッタ クサン マ ケク tanto maciya ot ta ku=san ma k=ek.

私は江別に狩に行ってきた。

イベチ ウン ケキムネワ ケク ipeci un k=ekimne wa k=ek.

川に沿っておいで。

ペツ トウラシ エク pet turasi ek! (下流から上流へ来る)

ペツ ペシ サン pet pes san! (上流から下流にくる。pet pes ek というのはおかしい言
い方だ。しかし、話し手と聞き手が同じ位置関係にあって、「私の方へおいで」というときは、
エンヘコタ エク en=hekota ek! とともにエンヘコタ サン en=hekota san! とも言う)

沢に沿って上って行くのを私は見た。

ナイ トウラシ アルパ シリ クヌカル nay turasi arpa sir ku=nukar.

沢にそって下って行くのを私は見た。

ナイ トウラシ サン シリ クヌカル nay turasi san sir ku=nukar.

(サン san をラン ran と言ってもよいかもしれない)

裏山の麓(フルスツ hursut)に住んでいるおじいさんのところに行こう。

フルスツ ウン エカシ hursut un ékasi eun paye an rok.

裏山の麓に住んでいるおじいさん

マクン エカシ mak un ekasi (makún ekasi ではない)

裏山の麓に住んでいるおじいさん

マクン アチャポ mak un acapo

マク タ アン アチャポ mak ta an acapo

(ひいおじいさんのことをサタ エカシ sáta ékasi という。その一代前の前のおじいさんをマクン エカシ makún ékasi とかマクタ エカシ mak ta ekasi とかマクタ マクン エカシ mak ta makún ékasi という。また、mak ta an ékasi という表現は「家の中の隅にいるおじいさん」の意味にもなる)

私は裏山の麓の方へ行ってきた。

ヘマカシ カルパ ワ ケク hemakasi karpa wa k=ek.

裏山の麓の方へ行こう。

ヘマカシ パイエ アン ロ hemakasi paye an ro.

裏山の方から来る

ホマカシ エク コロ アン homakasi ek kor an.

裏山の上から来る

フル カ ワ ラン コロ アン hur ka wa ran kor an.

私は川へ行く

ペツ オルン クラン pet or un ku=ran.

ペツ オルン カルパ pet or un k=arpa. (どちらを言ってもよい)

川の側に住んでいるおばあさん

ラ ウン フチ ra un huci

川の側にいるおじいさん

ラ タ アン エカシ ra ta an ekasi

もっと川の方で遊ぼう

ナ ラ タ シノツ アン ロ na ra ta sinot=an ro (この言い方は、川の中に入って遊んでいるときにも使える。その場合、ペッチチャイ petcicay よりもっと川の中で遊ぼうということになる)

私は川へ下りて水を汲んで来る

ホラシ クラン マ ワクカタ ワ ケク

私は水を汲んで来る

クワクカタ ワ クヤン ku=wakkata wa ku=yan

私は川から戻って来る

ペツ オロ ワ ケク pet or wa k=ek.

ペツ オロ ワ ク ヤン pet or wa ku yan.

私は川の方から来る

ホラシ ケク horasi k=ek (ホラシ クヤン horasi ku=yan と言うのはおかしい)

〔白沢ナベ氏〕

10-4-4. 地理・地名

厚真は、私が子供のころアンジマとかアンズマとっていたが、アツマ atma というのが本当の名前だ。

〔白沢ナベ氏〕

物語に出てくるウラユシナイ urayusnay がどこにあるコタンなのかわからないが、11歳のときビビ川に行ったとき、ウライのあとがたくさんあったので、ここではないのかと思ったことがある。

〔白沢ナベ氏〕

カマバ kamapa カマ kama はアイヌ語で、河床が石盤になっていて流れの緩やかになっているところ。小山田家の少し下流の坂の始まるところについた名前。

〔白沢ナベ氏〕

モンベツはシコツの山の後ろまで行っている、ナイベツよりも大きな川だ。しかし私達が一番大切にしている沢はナイベツである。ナイベツはナイ nay で、昔はナイプツ nayput と言っていた。それがナイベツと言うようになった。冬は暖かく夏は冷たい水だ。

真冬にナイベツに入って手で魚を取ったこともある。おもしろかった。

〔小田イト氏〕

チノミシリは私の家のやや下手の山の上にもある。そこから義経が千歳川の魚を突いたそう。だからわたしの家ではそこだけ木を刈らずに残しておいた。

〔白沢ナベ氏〕

千歳川とその支流、モンベツの間の山のつねに小さい沼(ポン ト pon to)がある。これは神の井戸だそう。ここもチノミシリだ。神がのどが乾けば水を飲みに行くところだ。

〔白沢ナベ氏〕

シコツ湖の周囲

シコツ湖にそそぐ沢にはシサムナイ sisamnay、ピプイ pipuy (美笛)がある。雨が降るとシコツ トホ sikot toho (シコツ湖)からピプイにアメマス (トゥクシシ tukusis) がのぼる(ナイペカ naypeka)そう。また、ピプイエと丸駒温泉の間にニナルスツオマナイ ninar sut oma nay がある。高い山の「ねき」(ふもと)に出てくる山だからこのような名前がつい

ていると思う。この川の右側にフレナイ *húre nay* がある。赤い水が滝となってジャーと流れている。

〔白沢ナベ氏〕

シラッチセ *sirat cise*

(シコツ湖の周りの山の神はどんな神かという問いに) 高い山で、カムイヌプリ *kamuynupuri* だからマタギに行った。ピプイ トウラシ *pipuy turasi* (美笛川にそって) 行ったらシラッチセ *sirat cise* があって、カムイサパ *kamuy sapa* がいっぱい出たそうだ。

〔白沢ナベ氏〕

ウクルメム *ukurmem* 白沢ナベ氏宅の裏を流れる小川。ウクルメムのような小川をポン ナイ *pon nay* という。ナイというのは、土の下から水がプンプンと吹き出して流れるものをいう。春になると、石の上にぬらぬらしたものがつく。魚がいっぱい上ってくる(シペ ルイ *sipe ruy* あるいはシペ アシン *sipe asin*)とそのぬらぬらしたものが浮いてくる。これをメム *mem* という。

(ウクルというのはどうゆう意味かという問いに) 昔、この小川に沼があった。沢の尻だから炭焼きさんが埋めてしまった。それでほりになって、白子などがメムのように浮いて来る。だからメムと呼ぶようになった。